

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：34302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00914

研究課題名(和文) オンラインを利用した国際共同によるイスラーム法廷文書資料の整理・公開

研究課題名(英文) Cataloging of the Islamic Court Documents in Uzbekistan through the International Collaboration on Line

研究代表者

堀川 徹 (Horikawa, Toru)

京都外国語大学・外国語学部・名誉教授

研究者番号：60108967

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、長年にわたって実施してきた「中央アジア古文書研究プロジェクト」で収集した古文書のデータを整理して、カタログを作成することを目的として実施された。そして、2002年度よりプロジェクトを牽引してきた磯貝健一京都大学教授の全面的な協力を得て、最終的に「国立イチャン・カラ特別保護区博物館所蔵、及び2003年収集のヒヴァの売買文書簡易カタログ」(英語・ロシア語併記)を作成し、ウズベキスタン共和国ヒヴァ市のイチャン・カラ博物館に提供することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回作成された簡易カタログは、ウズベキスタン共和国ヒヴァ市で収集した48点の売買文書に限られており、これだけで学会を裨益するということとはできない。しかしながら、20年以上続けてきたプロジェクトによって収集された古文書データは6000点を超過しており、これらが当該地域・時代の研究の重要な資料となりうることは間違いない。データのカatalogを作成して公表し利用できる形にすることは、プロジェクトに携わった者の責務であり、ここに提示されたカタログのひな型がそのきっかけになればと思われる。

研究成果の概要(英文)： This study was conducted with the aim of organizing the data from ancient manuscripts collected over many years through the "Central Asian Manuscript Research Project" and creating a catalog. With the full cooperation of Professor Kenichi Isogai of Kyoto University, who has led the project together since 2002, we were able to compile and produce the "Preliminary Catalog of Sales Documents from Khiva: Held by the Ichan Kala Special Reserve Museum and Collected in 2003" (bilingual in English and Russian). This catalog was then provided to the Ichan Kala Museum in Khiva, Republic of Uzbekistan.

研究分野：中央アジア史

キーワード：イスラーム法廷文書 中央アジア 古文書カタログ 売買文書

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 研究成果報告書

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、2002年度より報告者が中心となり継続して実施してきた「中央アジア古文書研究プロジェクト」によって、ウズベキスタン共和国で収集した6000点以上のイスラーム法廷文書を、研究資料として利用するために計画されたものであった。これらの古文書は、当該地域の19～20世紀初頭の社会を映し出す貴重な資料であり、これらを利用できるように、その概要を記すカタログを作成する必要性を強く認識していたことから始まったのである。

### 2. 研究の目的

本研究は、中央アジア史研究の基礎資料であるイスラーム法廷文書の整理・読解と、その内容解説付き目録の公表を目的として開始された。そのためにまず、文書の読解作業を進めて内容別に分類するとともに、カタログをどのような形にするか検討して、そのひな型を作成することを最初の目的とした。次いで、ひな型に基づいて、項目ごとに抽出した文書内容を記録することとしたが、その際、カタログは文書の種類ごとにまとめて記載することとした。カタログは世界の研究者が利用できるよう英文とするが、現地の人たちにも容易に理解できるようにロシア語も併記することとした。当初、手元にある古文書データのうち、イスラーム法廷文書約500点について読解・整理し、カタログ化することを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究の目的であるイスラーム法廷文書のカタログ作成のためには、まず、古文書を読解せねばならず、文書を読む技能に長けた者がその役割を担う必要があった。上記した古文書研究プロジェクトにおいては、現地における調査・研究と同時に、国内において古文書読解技術を磨くために、毎年継続して「中央アジア古文書研究セミナー」を開催し、古文書研究に通じた人材の開発と育成に努めてきた。そうした研究者の能力の高さと層の厚さには、我が国を訪問したウズベキスタンの東洋学研究所長も驚いていたほどで、研究能力に対する信頼感が、長年に亘って彼国の研究者との共同研究が継続的に行われている一要因であると思われる。

本研究を開始するにあたって、まずは共に研究を進めてきた我が国の研究者たちに協力を求めることを考えたが、いずれも、それぞれの研究・教育その他の活動に追われていて、なかなか余裕を見いだせない状況であった。そこで考えたのが、オンラインを活用して海外研究者の協力を求め、無理のない範囲で国内研究者の協力も得て、国際共同作業を通してカタログ作成作業を実現しようとしたのである。しかしながら、現地研究者に共同作業を提案すれば容易に受諾してもらえるものと思っていたが、それが最大の誤解で、彼らはそれぞれ彼国において枢要な地位・立場についており、到底この計画に参加できるような状況ではなかった。報告者の見通しの甘さから、本プロジェクトの柱となるべき国際共同作業が推進できず、研究方針を大きく転換して、国内の研究者たちの協力を得て研究を進めることとした。

一方、カタログをどのような形にするか、様々な観点から検討してそのひな型を作成することを進めた。本研究は一連の基礎作業の第一歩であり、今後とも継続して実施していくべきものであるため、ひな形の作成にあたっては、長年にわたって共にプロジェクトを推進してきた磯貝健一京都大学教授の協力を第一に求めることとした。ひな形が決まったところで、研究代表者と研究分担者が中心となって、プロジェクトに関係する国内の研究者に無理のない範囲での協力を求め、カタログ作成作業を進めることとした。

### 4. 研究成果

研究初年度には、個々の文書データをどのように収録するか、すなわち、カタログの体裁をどのようにするか検討する一方で、古文書読解作業は、研究分担者の杉山雅樹の尽力もあって予定通り順調に進められた。その成果は、とくに杉山の「中央アジア古文書研究セミナー」での研究発表に直接反映している。ひな形の作成には、上記した磯貝健一京都大学教授と協議して検討したが、問題点もあって最終的な結論に達することができず、ひな形の作成は令和4年度に持ち越されることになった。

一方、同じく磯貝教授の発案により、個々の古文書を活字化して公表しようとの計画が浮上し、読解した文書についてアラビア文字による入力と、原文書との突合せによるチェック作業を行うこととなった。まずは、ヒヴア・ハン国時代に作成されたイスラーム法廷文書のうち、売買文書を対象として作業が進められ、年度末時点で30点ほどの文書の活字化とチェックが完了した。こうした作業はその後も継続して実施されている。

令和4年度における第一の研究目的は、文書カタログのひな型を作成しどのような体裁でカタログを公表するかを決めることであった。昨年度から持ち越されたものであったが、上述した磯貝健一教授の協力を得て検討し、まずは売買文書の英文によるひな型を策定することができた。また、別途ウズベキスタンへ出向いた際に、ヒヴアのイチャン・カラ博物館

に立ち寄り、館長および前館長で、上記古文書プロジェクトの協力者であるカミルジャン・フダイベルガーノフ氏と面談した。氏は長年にわたってプロジェクトに参画し、ともに古文書収集活動を実施してきた人物で、収集した古文書のカタログ作成にも意欲を見せており、今後どのように作業を進めるかについて協議した。そこで、我々が行っている作業に同意するとともに、将来的には紙媒体によるカタログの刊行にも意欲を示していた。この点については今後の検討課題としたい。

最終年度には、古文書の読解作業を進め、その成果の一部は「第22回中央アジア古文書研究セミナー」の講師として研究分担者の杉山が公表している。また、昨年度に策定されたひな形に基づき、磯貝健一教授の全面的な協力を得て、ヒヴァのイチャン・カラ博物館に収蔵されていた古文書と、2003年に我々が収集して同博物館に寄贈した古文書のうち、活字化作業を終了した売買に関する文書48点について、英語・ロシア語併記によるカタログ：「国立イチャン・カラ特別保護区博物館所蔵、及び2003年収集のヒヴァの売買文書簡易カタログ」を作製することができた。これは、イスラーム法廷文書に精通しロシア語も堪能な磯貝教授の尽力によるものである。同カタログのデータは、上記したカミルジャン・フダイベルガーノフ氏にも提供されており、同博物館のウェブ・サイトで公表される。

以上、本研究は当初目指したような成果を上げることはできなかったといえよう。しかしながら、長年にわたって続けてきたプロジェクトの総決算とも言えるカタログの作成は、プロジェクトを企画し実施してきた者としての責務であり、現在プロジェクトを主宰している磯貝教授に協力して、今後とも作成作業を続けていきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 杉山雅樹	4. 巻 131 - 5
2. 論文標題 回顧と展望：西アジア・北アフリカ（イスラーム時代）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史學雑誌	6. 最初と最後の頁 303 - 308
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川徹	4. 巻 -
2. 論文標題 Epilogue シャリーア法廷文書収集・研究の二十年	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 磯貝真澄・磯貝健一編『帝国ロシアとムスリムの法』昭和堂	6. 最初と最後の頁 267-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山雅樹	4. 巻 103号
2. 論文標題 『天国の諸庭園（Rawdat al-Jannat）』の写本と未校訂箇所の研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 17-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山雅樹	4. 巻 1
2. 論文標題 『ティムール朝のワクフ文書』再考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究別冊	6. 最初と最後の頁 131-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山雅樹	4. 巻 -
2. 論文標題 ティムール朝期のヘラートにおける聖者たち	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 守川知子編『都市からひもとく西アジアー歴史・社会・文化ー』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 89-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川徹	4. 巻 9
2. 論文標題 ティムール帝国とイスラーム都市文化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ポスト・モンゴル時代の陸と海 (アジア人物史 9)	6. 最初と最後の頁 003-070
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 杉山雅樹
2. 発表標題 ティムール朝の諸史料にみる非合法税 タムガとザカートに関する記述から
3. 学会等名 第64回日本オリエント学会年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉山雅樹
2. 発表標題 ワクフに関わるファトワー文書
3. 学会等名 第20回中央アジア古文書研究セミナー (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉山雅樹
2. 発表標題 中央アジアにおける離婚に関するファトワー文書
3. 学会等名 第22回中央アジア古文書研究セミナー（招待講演）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉山 雅樹  (sugiyama masaki)  (30773824)	京都外国語大学・外国語学部・非常勤講師   (34302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------